

## Σ委員会

### 炉定数グループ

#### 第7回F.P.Chain追跡ワーキング・グループ会合議事録

1. 日時 12月4日 13時30分～17時
2. 場所 原研本部第1会議室
3. 出席者 永山(原電), 大竹(富士), 小林(MAPI), 亀井(NAIG), 桂木, 坂田(原研)
4. 議事
  - (1) 作業進行状況報告
    - (i) 共鳴積分計算コードの作成: 小林委員
      - (a) テスト計算によつてコードの誤りを修正している。近日中に完成する予定である。
      - (b) 入力データのうち2200m/secおよび分離領域の共鳴パラメータは既にパンチカードが用意された。非分離領域のパラメータは作成中である。
    - (ii) Chain追跡コードの作成: 永山委員
      - (a) テスト計算により満足な結果が得られ, コードは完成した。
      - (b) コード作成に要した費用は495K多である。
      - (c) 計算に要する時間(11核種の計算時間)は
        - (イ) カード出力の場合 約1分
        - (ロ) グラフにプロットした場合 約3分である。但し交換式には複雑なものを使用したもので実際の場合は多少短くなる。
      - (d) F・P・核種のYieldおよびDecay constantのDataの整理はこれから行う。
  - (ii) 討 論

上記報告に対し, 討論の結果, 次の事が決められた。

(a) 共鳴積分の計算

- (イ)  $\sigma_{2200m/sec}$  および分離領域の共鳴パラメータ (R・P) が BNL-325 で与えられているものは非分離領域のパラメータを決めて計算する。
- (ロ) R・P のみが与えられているものも (イ) と同様であるが、 $\sigma_{2200m/sec}$  は R・P から計算して求める。
- (ハ)  $\sigma_{2200m/sec}$  のみが与えられているものは断面積グラフ等により R・P を検討し、決められたらば共鳴積分を計算する。
- (ニ) 上記以外の核種は今回は計算しない。
- (ホ) 共鳴積分の計算は IBM7090 (外註形式) で行う。このための予算は 400K を予定する。
- (ヘ) F・P 核種の Yield の値は永山委員が既に整理したものを検討して採用するが、CCDN への問合せすることも検討する。
- (ヘ) Chaim 追跡の計算には原研7044を使用することとし、具体的な作業方法は後日決める。

(2) 今後の作業

- (i) 用意した共鳴パラメータを再チェックするため12月12日10時~12時まで原研本部第2会議室で作業する。(出席者: 永山, 大竹, 小林, 亀井, 坂田委員)
- (ii) 共鳴積分を計算する核種の数を決定し、計算依頼の事務手続を行ったのち計算する。  
この計算の結果を Chaim 追跡コードの入力とする。
- (iii) 今年度内に Grouping までの作業を行うこととし、この計算コードの概略仕様を12月中にまとめる(永山委員, 齊藤委員)。なおこのための予算の確保を図る。